

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2013 - 1 - 5
研究課題名	FDG PET/CT を用いた脂肪を含む副腎腫瘍の鑑別に関する研究
研究期間	西暦 2013 年 4 月（倫理委員会承認後）～2014 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（PET/CT 画像、造影 CT 画像、診療情報）
上記材料の採取期間	西暦 2005 年 1 月～ 2012 年 12 月
意義、目的	副腎腫瘍の診断は主に CT 検査で行われる。CT 値が低い腫瘍は脂肪の含有が示唆され、ほぼ全例が良性腺腫である。CT ではホルモン産生の有無は評価できないため、追加のホルモン検査や副腎シンチ検査が必要となる。近年、陽電子放出核種 F-18 で標識したグルコースの類似体である fluorodeoxy-glucose (FDG) を用いた positron emission tomography (PET)/CT 検査による癌診断が急速に普及しており、偶然に副腎腫瘍が見つかる例が増加している。グルコースに類似した FDG は細胞の糖代謝を反映し、増殖能やホルモン産生の上昇により糖代謝が亢進した副腎悪性腫瘍の検出に有用である。一方、良性の副腎ホルモン産生腺腫の FDG 集積の報告は少数である。本研究の目的は、良性が強く示唆される脂肪を含む副腎腫瘍に関して、副腎ホルモン産生腫瘍と非産生腫瘍の FDG 集積を比較・検討し、FDG PET/CT で偶然認められた副腎腫瘍に対する追加検査の指針を提示することである。
方法	上記採取期間に、当院で副腎腫瘍の精査で FDG PET/CT 検査を施行した 200 症例を対象として、脂肪を含む径 2cm 以上の副腎腫瘍を抽出し、腫瘍の SUVmax、肝の集積との比(SUV ratio)を算出する。副腎ホルモン産生腫瘍と非産生腫瘍の副腎 FDG 集積 (SUVmax および SUV ratio) を比較し、脂肪を含む副腎腫瘍における FDG PET/CT によるホルモン産生腫瘍の診断精度を明らかにする。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 放射線診断科 助教 高浪健太郎 022-717-7312 (放射線科 医局)